

# 1 障害者支援施設 愛正園

## 総括

令和7年度も引き続き全国身体障害者施設協議会の基本理念である「最も援助を必要とする最後の一人の尊重」「重度障害者の最後の砦」に立ち帰り「愛正園らしい日常生活を提供する」ことをテーマに取り組みました。しかしながら、新型コロナウイルスをはじめとする周囲の状況から感染対策を継続せざるを得ず、取り組みに対する課題は多く残っております。

また、短期入所事業の利用率が令和6年度は（前年度の29.9%）から利用率34.7%まで回復しましたが、令和7年度は30.3%と減少しました。施設入所の利用率も令和7年度は98.7%でした。

これは利用者様の疾病の重度化による入院の長期化、入院治療のための利用契約解除や死亡退所が続いたことによるものと考えます。

### （1）事業内容

- ア 施設入所支援
- イ 生活介護サービス
- ウ 短期入所事業
- エ 日中一時支援事業
- オ 指定特定相談支援事業

### （2）事業実施状況

ア 長年愛正園の問題事項であった利用者様の加齢による障害の重度化・疾病の重症化が顕著になり、入院の長期化、入院治療のための利用契約解除や死亡退所が続き、施設入所の利用率も令和7年度は98.7%でした。生活の場である愛正園で提供できる医療的ケアを見極めながら同系医療法人だけでなく、地域の医療機関との連携強化に努め必要な医療的ケアの提供に取り組みました。

イ 福祉施設は深刻な人材不足に直面しておりますが愛正園の職員配置基準は数字上充足しています。しかし利用者様へのより高品質なサービスの提供また利用者様の重度化・重症化に伴い年々増大、増幅、多様化する支援内容や支援の必要量から考えると現実的な質的人員不足は決して否めません。

そのため人材募集や確保に引き続き積極的に取り組み、働き方改革に対応した働きやすく風通しの良い労働環境の整備、職場の環境改善、有給休暇の取りやすい勤務体制等の検討、またアクティブシニア（65歳以上の就労希望者）の積極的活用や障害者雇用も組みました。また愛正園では初めての試みとなる外国人技能実習生の受け入れにも取り組みました。

ウ コロナ感染症対応だけでなくあらゆる感染症に対して継続して①利用者の安全確保、②提供するサービスの継続、③職員の安全確保に取り組みました。しかし令和8年2月中旬から約1か月半コロナ感染症とインフルエンザが同時に流行し一時期はクラスター状態になりました。これからも感染症対応については一つひとつ丁寧に対応し「更により対応方法はないか」を常に探求していきます。

エ 「障害者虐待防止」「障害者差別解消」「施設における身体拘束・安全保護」「被虐待者保護」「親の老い・家族関係の希薄化・親亡き後問題」等は引き続き丁寧に取り組みました。これからはご両親の高齢化問題も顕著であるため「親の老い・家族関係の希薄化・親亡き後問題」に取り組んでいきます。

#### オ 事業別実施状況

##### ○ 施設入所支援 定員 60 名

入所者様 60 名に施設入所支援サービスを提供しました。1 年間の退所は急逝された 4 名と治療のための入院となった 2 名を合わせて 6 名です。新規入所者は待機者の中から入所の緊急性を考慮して決定し、空床期間を極力縮めるよう努めました。

##### ○ 生活介護サービス 定員 65 名(施設入所 60 名を含む)

今年度も新型コロナウイルス感染症対策を最優先したことから、家族による面会や個人外出等の制限、日中利用の受入れ制限等により、十分なサービス提供ができませんでした。

##### ○ 短期入所事業 定員 20 名

短期入所の利用率については、令和 6 年度は利用率 34.7%で、令和 7 年度は 30.3%でした。令和 6 年度はわずかながら回復の兆しがみられましたが、令和 7 年度は思うように回復せず苦慮が続きました。

理由として東京都内から長期的に利用されていた利用者様が、出身区内の施設入所が決まったこと、施設入所者様の退所が続き入所契約となったことが続いたためと思われます。

また、医療的ケアの必要な重度障害者の利用相談がありましたが、同系医療法人内の病院や地域の医療機関の判断により、愛正園では対応困難であると、やむを得ずお断りしたケースも多くありました。

##### ○ 日中一時支援事業

市町村の地域生活支援事業の一つで、高萩市を含む近隣の 4 市と提携しています。今年度も昨年度同様新型コロナウイルス感染症の影響もあり利用希望はありませんでした。

○ 指定特定相談支援事業

相談支援専門員 2 名体制で地域との連携を図りながら、法人内施設の利用者様を中心に相談支援事業を実施しました。

(3) 利用状況

ア 利用者様の状況

施設入所支援	男 性	女 性	平 均
現 在 数	25 名	35 名	
平均年齢	55.5 歳	58.9 歳	57.5 歳
平均入所期間	10.8 年	14.4 年	13.0 年

イ 障害支援区分（障害者のみの区分…障害児は区分が三段階のため除く）

施設入所支援		生活介護事業（含入所者）		短期入所	
区分 1	0 名	区分 1	0 名	区分 1	0 名
区分 2	0 名	区分 2	0 名	区分 2	0 名
区分 3	0 名	区分 3	1 名	区分 3	1 名
区分 4	2 名	区分 4	3 名	区分 4	1 名
区分 5	5 名	区分 5	11 名	区分 5	5 名
区分 6	53 名	区分 6	69 名	区分 6	17 名
合 計	60 名	合 計	84 名	合 計	24 名
平均区分	5.9	平均区分	5.8	平均区分	5.6

ウ 短期入所事業等

	延人数	延日数
障害者短期入所	621 名	2,209 日
障害児短期入所	10 名	10 日
生活介護サービス	1,752 名	1,752 日
日中一時支援	0 名	0 日
合 計	2,383 名	3,971 日

※ 短期入所(定員 20 名)の利用率は、前年度の 34.7%に対して令和 7 年度は 30.3%でした。

エ 計画相談支援

策定月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
計画	8	3	0	2	1	1	5	5	2	2	3	4

モニタリング	13	14	21	6	13	28	11	13	17	5	8	29
--------	----	----	----	---	----	----	----	----	----	---	---	----

(4) 職員配置状況 (R8. 3. 31 現在)

施設長	事務長	サービス管理責任者	事務員	生活支援員	看護師	栄養士	調理員	嘱託医	OT	その他	合計
1	1	2	4	28	4	3	4	(2)	(1)	16	63

(5) 実習生および研修生等受入状況

ア 介護実習

期 間	学校名	学年・人数
6/13～6/24(7日間)	高萩清松高等学校	3年生 1名
7/1～7/17(11日間)	高萩清松高等学校	3年生 2名

イ 介護等体験

期 間	学校名	学年・人数
10/6～10/10(5日間)	茨城キリスト教大学	2年生 1名
10/27～10/31(5日間)	茨城大学	2年生 1名
11/24～11/28(5日間)	茨城大学	2年生 1名
12/8～12/12(5日間)	茨城キリスト教大学	2年生 1名

ウ 職場見学 (企業訪問)

期 間	学校名	学年・人数
7/28	磯原郷英高等学校	3年生 3名
7/29	高萩清松高等学校	3年生 1名
8/19	第一学院高萩本校	3年生 1名
10/20	高萩高等学校	3年生 1名

(6) 地域における公益的な取組 (地域貢献活動)

ア ボランティア受入

清掃ボランティア (ひのきしん隊 年2回)

イ 地域交流

感染症対策のため地域交流は実施できませんでした。

高萩市社会福祉協議会からの依頼で、赤い羽根共同募金の時にお配りするイラスト作成と施設内で赤い羽根共同募金活動を行い、代表して職員が高萩市社会福

祉協議会へお届けしました。併せて古切手、プルタブ、ペットボトルキャップも  
お届けしました。

以上